

「別府の驚異編」 モノクロあらかると

こんなに別府って面白いところだったの!?
単純に驚いた昔のモノクロ写真。
古い写真を見ているのに、知らない世代にとつては
新鮮で、なおかつ驚くことばかり。
これらの貴重な写真は故・安部巖氏の収集の賜物。
そして息子さんの浩之さんが受け継いだ
別府に関する膨大な資料と
平野芳弘さん収集の平野資料館(P64参照)の
所蔵物の中からほんの一部だが紹介しよう。



安部浩之さん(写真)の父・故安部巖氏は社会科の教職生活の傍ら、「社会教育は郷土教育から」の理念のもと、自宅に資料館を造るほど郷土温泉資料を収集し、自らも執筆していた。そんな父の意思を継ぎ、浩之さんは膨大な資料を保存・管理しながら、観光都市・別府の復興のために活動している。「別府の個性は、もっと深く、歴史的なものに根付いたところにある」とする彼は、その貴重な資料を一般に公開するためにも、「国際温泉博物館」ができるのを願っている。しかし個人の力では限りがあると、これから活動を模索中。

1



[昭和12年]

別府には世界的有名人もわんさか

かの有名なヘレン・ケラー女史は、昭和12年に講演会のために来日、同年6月に別府を訪れている。この写真は、鉄輪の海地獄を訪ねたときのもの。他にもヒットラーやウィーン少年合唱団なども実は別府に来ていた!

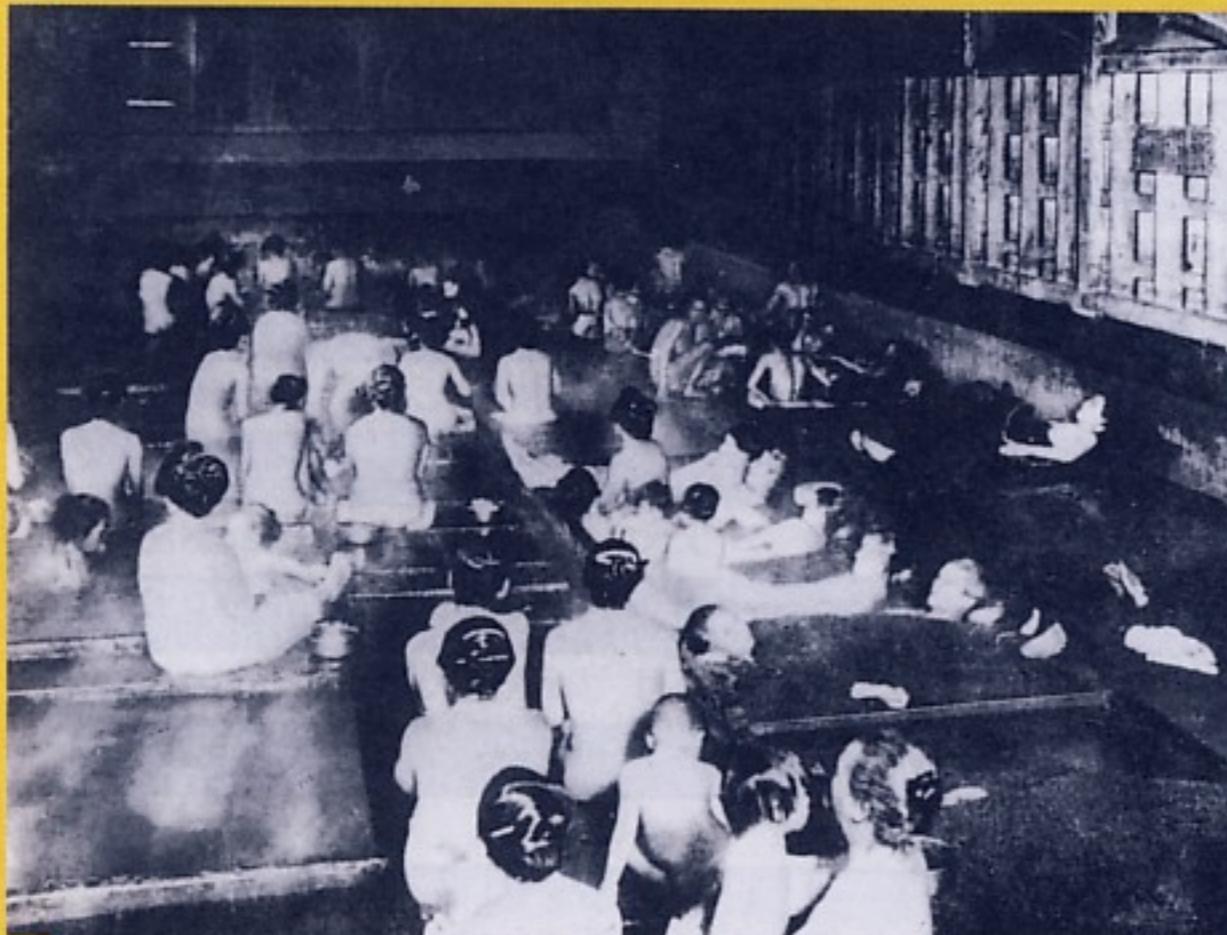
2



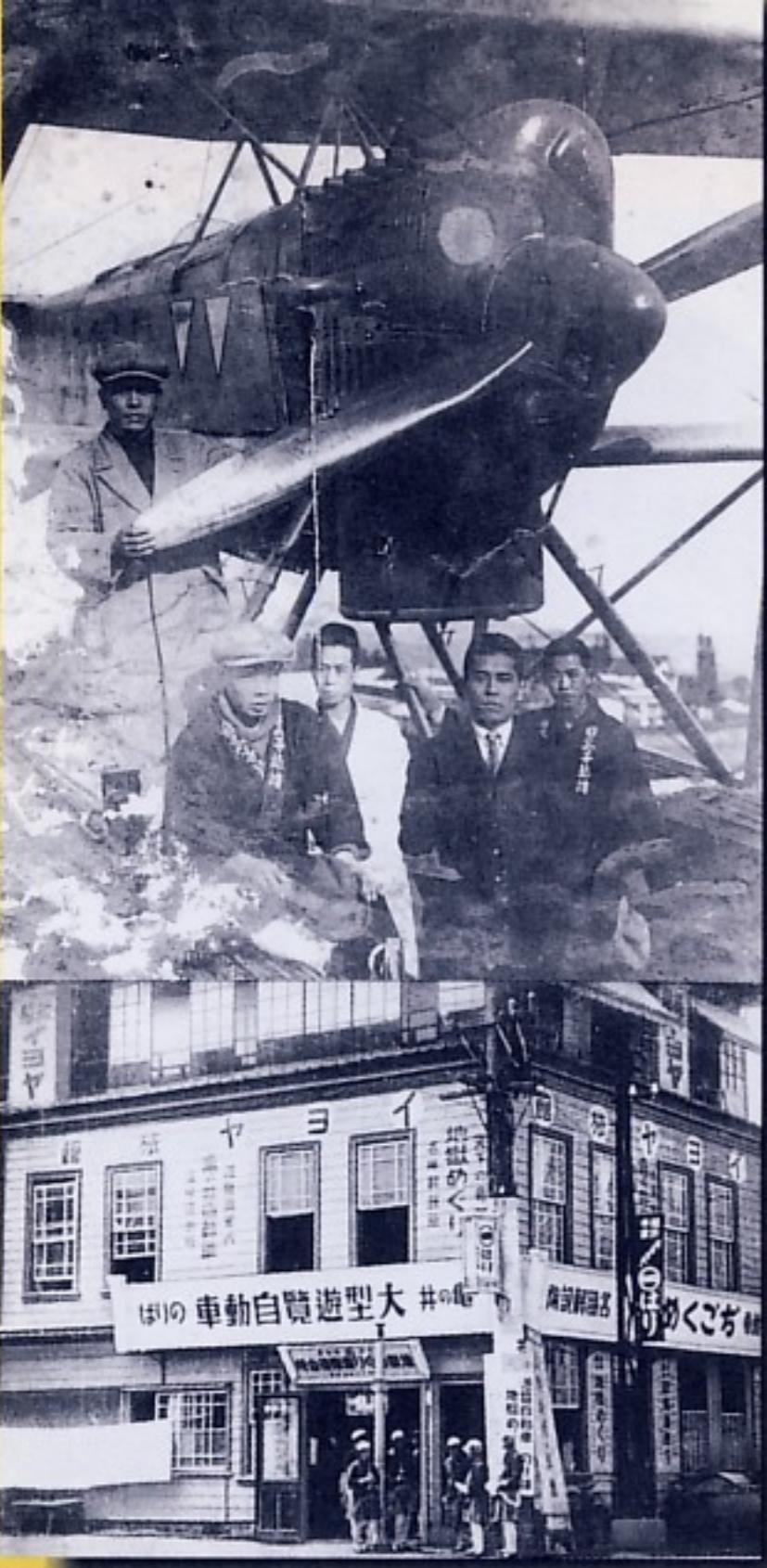
今も昔も温泉好きはやまほどいた

今は外国人観光客からも注目度No.1の竹瓦温泉だが、その人気っぷりは昔から!? 普通湯と砂湯があつたことも見てとれる。日本髪の女性がちらほら。

3



大正時代の砂湯の入湯風景。後ろの方に見えるのは大阪商船である。初めてこの近代的な船で別府を訪れた観光客の目に、砂に埋もれるおねえさん達の姿はどう映つただろう。



6
7



油屋熊八、 本当にあなたは偉大だった

上／油屋熊八が湯の町別府のPRのために富士山に標柱を立てたり、日本初の大型観光バス、日本初のバスガイドを誕生させた話はつとに有名。他にも実は温泉マークを発案したり、水上飛行機を観光遊覧に取り入れたりと、そのアイディアと行動力には脱帽する。

下／大型遊覧自動車、つまり大型観光バスのりば。
流川通りにあった。

4



夜はネオンぴかぴか

戦後の駅前通り、銀座街入り口付近の一枚。まだ駅前電車の軌道があるので、廃止となつた昭和31年以前の写真とみられている。何時頃なのかはわからないが、どの店も電気が煌々とついていた。

5



誰に見られようが 温泉は裸が当たり前、 開放的な場所

昔は通りに面している入口も開け放しで、若い女達は平気で温泉に入った。もちろん温泉は裸と決まっている。

8



地獄の湯わかし

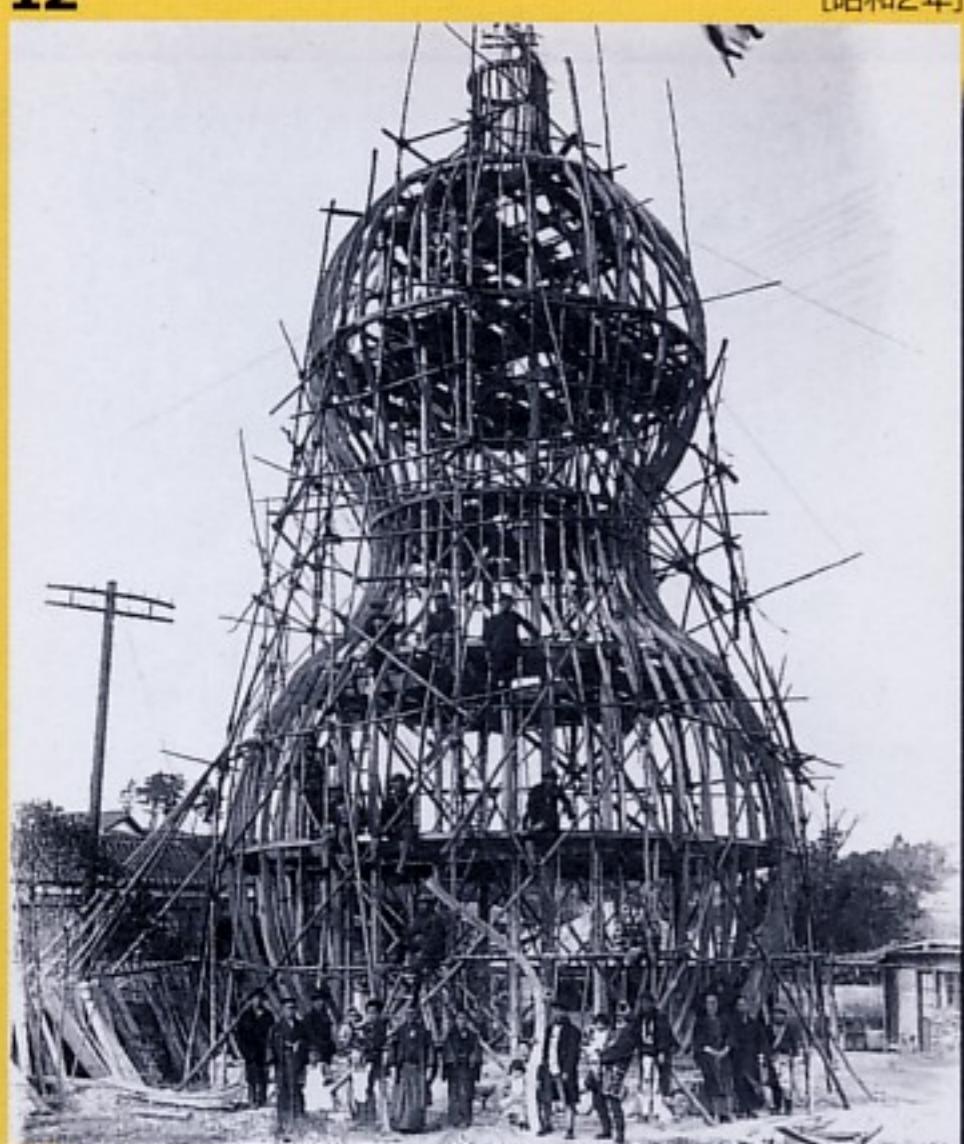
そのまんま。地熱で湯をわかす。



人生いろいろ～の流川通り

上／流川通りを通る亀の井バスガールのガイドの文句はこうだ。「ここは名高い流川 情のあつい湯の町の メーンストリートの大通り旅館商店軒ならび 夜は不夜城でございます」。

右／別府第一の繁華街であった流川通り。多くの作家や文学人が訪れ数々の作品を残しており、流川文学という言葉も生まれたほどである。3階にグランドキャバレーもある、豪華な社交娯楽場「カフェ・ビリケン」は、鬼才織田作之助の「雪の夜」や「怖るべき女」の舞台となり、様々な人間の愛憎が描かれている。



「ひょうたん温泉」その名の由来

今も存在する「ひょうたん温泉」。その名を大して気にも止めていなかつたが、この写真を見つけて「だからかー」と納得、直後に笑みが。まさか建物がひょうたんの形をしていたとは…7階建と知りさらに驚いた。しかし昭和20年に「米軍機の目標になる」との理由から、わずか19年で撤去された。



やっぱり祭りはこうでなければ

これは松原公園近くにある住吉神社の祭りの海上渡御風景。みこしを船に乗せ海を渡り、海の安全を願う。旗をなびかせている船列を見ると当時の祭りの盛大さがうかがえる。今も7月に行われているのだが、昔ほどの規模はない。